

国際赤十字社

2006年4月27日

一部抜粋

2006年の2月17日の週のモンスーンの雨が巨大な地滑りを引き起こし、南レイテ州の St. Bernard 地区の Guinsaugon にある村を埋めた。公式の犠牲者情報によると、死者数は154名、そして972名が行方不明で、すでに亡くなっていると推測される。291所帯と村の小学校が泥に埋まった。合計死者数は今後も分からない。410名が生き残った。

災害後、救援活動や生存者の緊急ニーズに対応する必要がある。避難者はその地区の10のセンターに避難している。地盤がゆるんだ土壌での地滑りによる切迫した危険のため、St. Bernard、Liloan と San Francisco の3つの地区から8000人が緊急に避難した。

資源・地学局 (mining and geoscience bureau) によると、地方政府は Catmon 村、Karnada 村、Ayahag 村、Nueva Esperanza 村、Magatas 村、Sug-Angon 村の全ての住民に避難するように決断した。今のところ、永久移住は Magatas 村、Kauswagan 村、Hinabian 村、Sug-Angon 村、Ayahag Nueva Esperanza 村、Atuyan 村 (部分的) のために実施されている。

このような人々は経済活動を何とか続けている人もいるが、多くの人々は移住先で新しい生活をするための支援を必要としている。

活動について

最初の段階では、避難民はもともとの10の避難センターから、Saint Bernard 小学校、Cristo Rey Regional 高校、Catmon 小学校、Inglesia ni Kristo の4つの避難センターに移動した。

いくつかの現地 NGO と 2,3 の国際 NGO と一緒に、PNRC (フィリピン赤十字) はこれらのセンターの避難民を支援している。食傷、保険、水、衛生、家庭用品などの日常的に必要なもの提供する支援をしている。いくつかの団体は特に Guinsaugon からの生存者に対して精神的な支援を行っている。PNRC は緊急時の精神的な支援を止めて、長期的な支援を行っている。従来の手続きに沿って、地元の市長室がすべての活動の調整をしている。一般的に、被災者のための緊急時の基本的なニーズは、その地域で活動している団体によって、十分に提供されている。同時に当局は活動や計画の調整が現存する資源をよりよく配分することにつながっている。

生存者や避難民のための日常的な必要物資を提供する支援を継続する必要があるが、現在は復旧や復興の段階にある。

数少ない外国の組織がまだその地域に残っている。それらは主に避難所で必要物資を提供している。PNRC や地元の団体や緊急の段階を越えて、支援を続けており、コミュニティベースの防災、精神的なサポート、住宅やコミュニティ施設の建設、生計のためのプログラムといった、被災者のための長期的な支援を準備・計画している。

今のところ、現地政府は PNRC や他の NGO と一緒に、被災者の再定住のための長期的な計画を約束した。2つの主な再定住地はすでに確認され、適切な建設地として整備されている。1つには約 300 世帯が住み、もう1つには 191 世帯が住む予定である。